

1. まちなみデザイン誘導ガイドラインとは

町民・企業のみならず行政が協働で進める景観まちづくりのための指針

- 女川町はこれまで育んできた歴史・風土を大切にしながら、住みたいまち、訪れたいまち、選ばれるまち、つまり「海と共に生きる、自慢したいまち女川」を作ることを目指しています。
- 女川の特性である海、山、水産業を中心とする暮らしが融合した住環境を再構築し後世に残していくためには、町民や企業のみならず行政が心をつなげて、一人一人がまちなみについて考え、行動を起こし、守り、育てていくことが求められています。
- 復興していく女川が魅力ある心地よい、自慢したいまちとなるようにとの思いでまちなみのガイドラインを作成しました。このガイドラインを活用し、町民や企業のみならず行政が協働でつくっていきましょう。新しい女川を。

2. まちなみデザイン誘導ガイドラインの目標

美しいまちなみという社会的共通資産の形成とその維持

- 女川に暮らすみなさんや訪れる人たちが、美しく、豊かで、賑わいがあり、魅力的と感じられるまちなみを創り出し、良好に維持するためには、公・私によって創り出す中間領域に対する配慮が不可欠です。



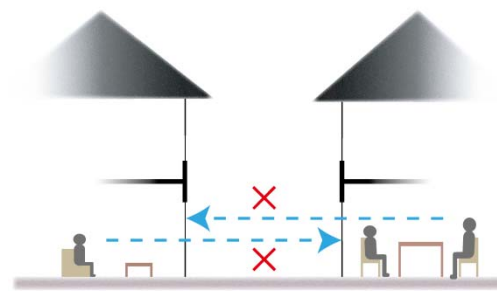
塀などが目立ち、単調な印象を受けるまちなみの例



中間領域が美しく演出されたまちなみの例

3. まちなみデザイン誘導ガイドラインの使い方

- このガイドラインが、お住まいのそれぞれの地域で美しいまち女川をつくっていく独自のまちづくりのルールを考える参考になることを期待しています。
- 隣の家どうしの居間の近接や、窓の向き合いなどを避けるため、計画段階から隣の家と部屋の配置や窓の位置などを調整しましょう。



このガイドラインの内容は規範となるまちなみデザインの基本的な考え方を記述しています。この規範を実現するための具体的な方策について3段階に分けて記述しています。

A 規範を具体化するために必ず守っていただく事項 (法的規制あり)

B 原則として守っていただきたい事項 (努力目標)

C 推奨事項 (努力目標)

このガイドラインは、個々の建築行為の際に留意して頂きたい内容を示したものです。ハウスメーカーや建築士にお見せしてご相談ください。

4. まちなみデザイン誘導ルール

(1) 風景・眺望への配慮

B 「僕のおうちも風景の一部」という考え方の下、建築が風景を支配しないよう、海への眺望や海や低地部から見える景観に配慮し、稜線や周辺の建築物群のスカイライン（建物の屋根がつくるまちなみのシルエット）との調和を図りましょう。

- みなさまの家の景観が女川の風景をつくります。

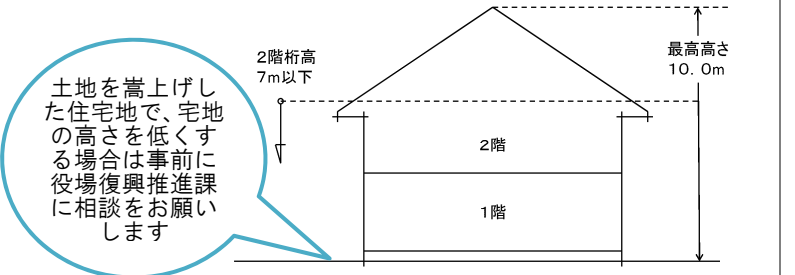


(2) 建築物の高さ・階数の上限・宅地の地盤高さ

A 都市計画で定める低層住居専用地域では、建物の最高高さは10mまでとなる予定です。

B 建物の高さは2階以下（地階を除く）とし、建物の2階桁高は7m以下としましょう。嵩上げ住宅地の地盤を掘り下げることは避けましょう。

- 近隣に圧迫感を与える高さの建物は避けましょう。
- 津波からの安全性を高めるために嵩上げた住宅地では、住宅地の地盤を掘り下げることは避けましょう。



(3) 望ましい屋根形状

B 屋根形状は、海や低地部から眺めたときの山並みと調和した屋根並みを形成するために、勾配屋根（切妻・寄棟・入母屋）を基本としましょう。

- 屋根は勾配屋根を基本としましょう



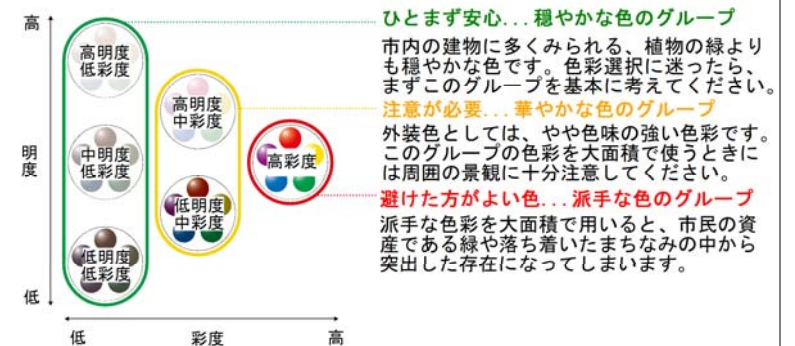
切妻中心の屋根なみ



(4) 周辺環境と調和する壁面・屋根の色と素材

B 外壁、屋根の基本色は、背景となる山々の緑との対比が極端に強い原色などの明るい色調を避け、緑にとけ込み、周囲の街並みに違和感なく調和する低彩度の色彩とし、暖色系の色相を基本としましょう。また、素材はできるだけ自然素材を活用することを考えましょう。ソーラーパネルの設置をお考えの場合、屋根はソーラーパネルが浮き立たないよう低明度・低彩度の色彩とすることを基本としましょう。

- 周りの街並みにとけこむ色づかいにしましょう



ソーラーパネルが目立つ屋根の色彩は控えましょう



ソーラーパネルと屋根の色彩が調和しているので○

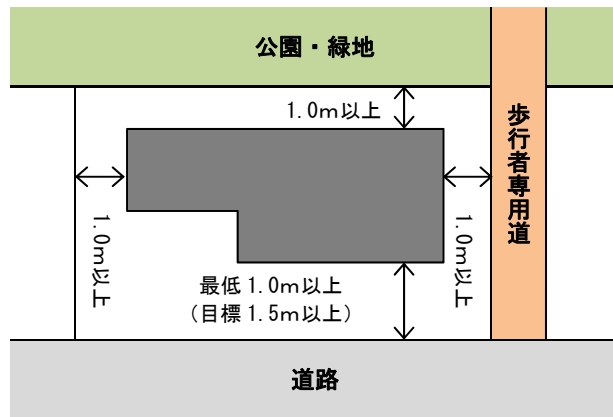


(5) 壁面の後退と外構緑化

A 都市計画で定める低層住居専用地域では、道路境界線または隣地境界線から1m以上の後退制限となる予定です。

B よりよい景観をつくりたい場合は、道路境界線から1.5m以上建物を後退させ、さらなる緑化に努めましょう。

■ 道路や隣地の境界線と建物の距離をとって、緑化に努めましょう



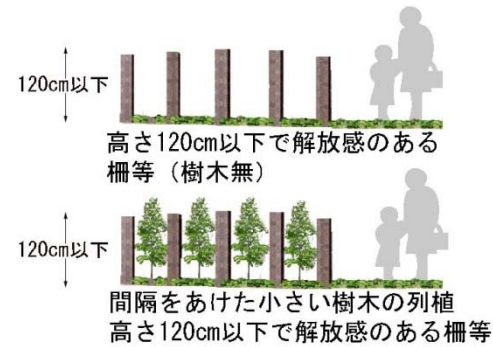
(6) 道路と一体感のある開放的なしつらえ

C 垣・柵はできるだけ作らないオープン外構を推奨します。垣・柵を作る場合は、その高さは1.2m以下で透視可能な構造にすると共に、板塀などの自然素材のものにしましょう。

■ 垣や柵は作らずオープンにしましょう



■ 垣や柵を作る際は開放的な構造にしましょう



(7) 時間とともに成熟する外構

C 一気に木を植える必要はありません。少しずつ時間をかけて庭造りを楽しみながら緑化に努めましょう。

■ 時間をかけて自然に近い緑をつくりましょう



【材料参考価格】 ヤマボウシ(苗木)H=0.5m 440円/本



■ 周囲は敷地と緑が連続するように緑化しましょう

(8) シンボルツリー

C 個性的な街並みを作り出すために各宅地に最低1本のシンボルツリーの植栽を推奨します。

■ 玄関周りに最低1本のシンボルツリーを植えましょう



【材料参考価格】

シラカシ	H=3.0m	枝張 0.15m	14,000円/本
アカシデ	H=3.0m	枝張 0.15m	15,000円/本
エゴノキ	H=2.5m	枝張 0.10m	6,100円/本
ヤマボウシ	H=2.0m		4,400円/本

(9) 法面を活かした緑化

C 法面は、むやみに擁壁にすることを控えて、できるだけまちなみに緑を増やす緑化スペースとして活用しましょう。

■ 法面はできるだけ緑化しましょう

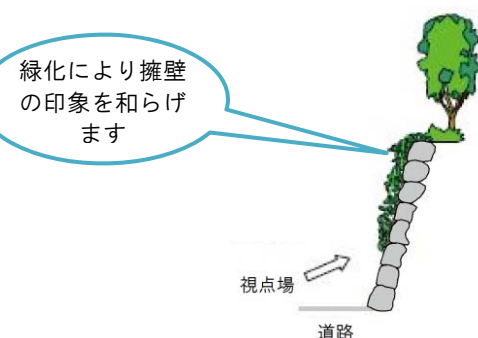
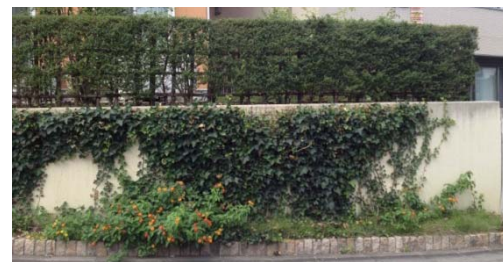


【材料参考価格】 キリシマツツジ H=0.3m 500円/本

(10) 擁壁の緑化

C 既にあるコンクリート擁壁も含め、擁壁につける性植物等を垂らすことにより、できるだけ圧迫感を軽減するよう努めましょう。

■ 擁壁はできるだけ緑化しましょう



(11) 自然石による土留め

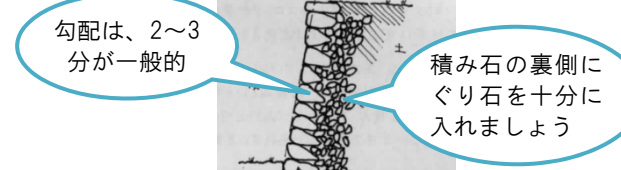
C 1m未満の高低差を土留めする場合は、できるだけ石積みとしましょう。また、できれば地場産の石材を用いて圧迫感を軽減に努めましょう。

■ 土留めは石積みとし、地場産の石の利用を考えましょう。



【材料参考価格 (石材メーカーヒアリング)】
自然間知石(0.5m×0.5m×0.5m) : 8500円/個 (H≤1.0m)
※石そのものの価格により、工事費は異なります。

■ 石積みとする場合は、安全な積み方としましょう



(12) 駐車場の工夫

C 駐車場の舗装面は、緑化ブロックやタイヤが乗る部分に限定するなど、緑化に努めるとともに、玄関との一体的なデザインを工夫しましょう。カーポートは推奨しませんが、設置する場合は開放的な2柱、または4柱の吹き放し構造としましょう。

■ 駐車場はできるだけ緑化しましょう



【材料参考価格】
芝生 510円/㎡

■ カーポートを設置する際は開放的な構造としましょう

